

アジア美術館基本計画策定に関する有識者会議 次第

第 3 回

日 時： 令和7年 10 月 24 日(金) 10 時 00 分～

場 所： 福岡アジア美術館 8階会議室

－ 次 第 －

1. 事務局より挨拶

2. 議事

- ・拡充先における施設整備について
- ・施設拡充に向けた事業手法の考え方について

3. 意見交換

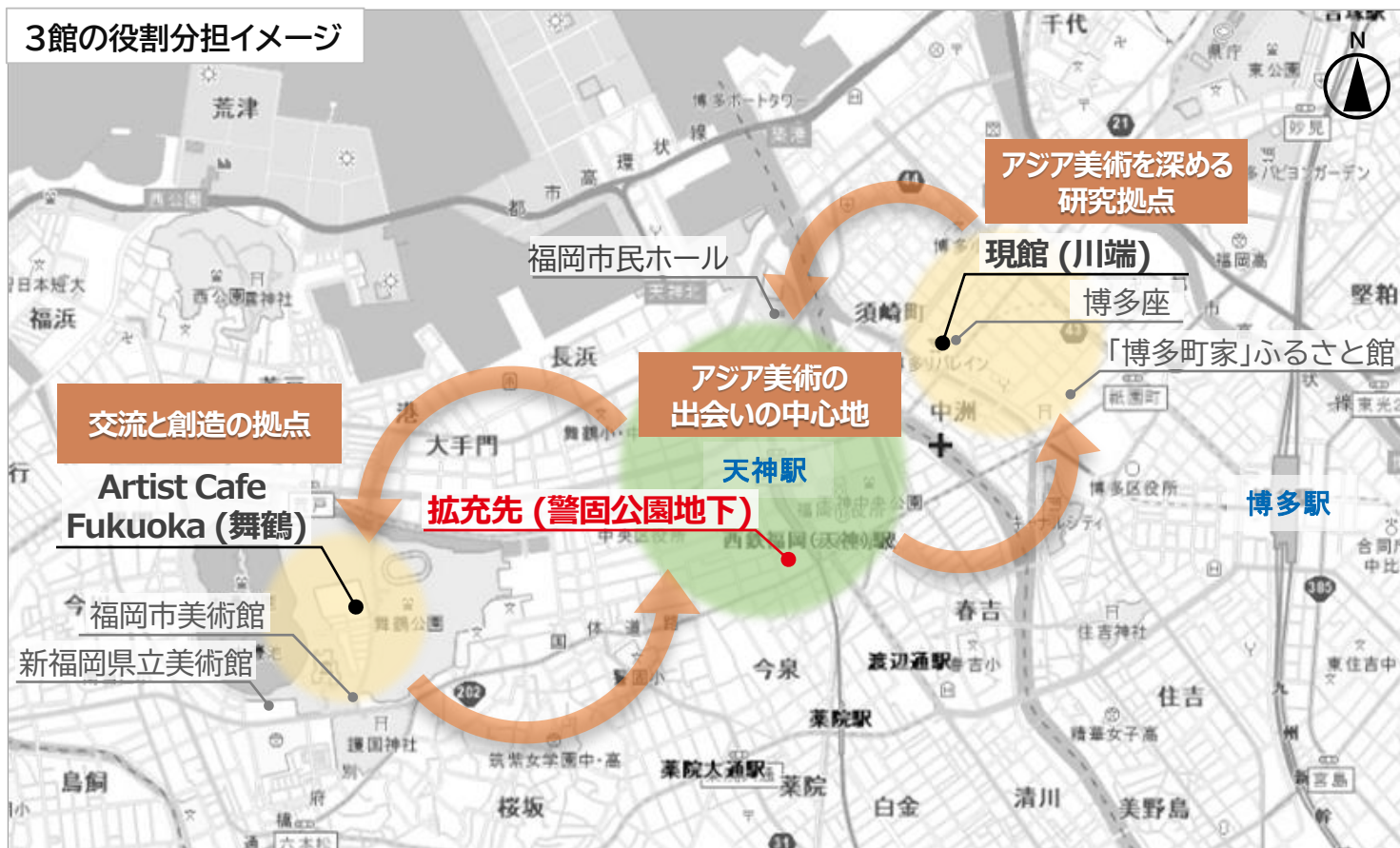
< 配付資料 >

資料Ⅰ 第3回「アジア美術館基本計画策定に関する有識者会議」資料

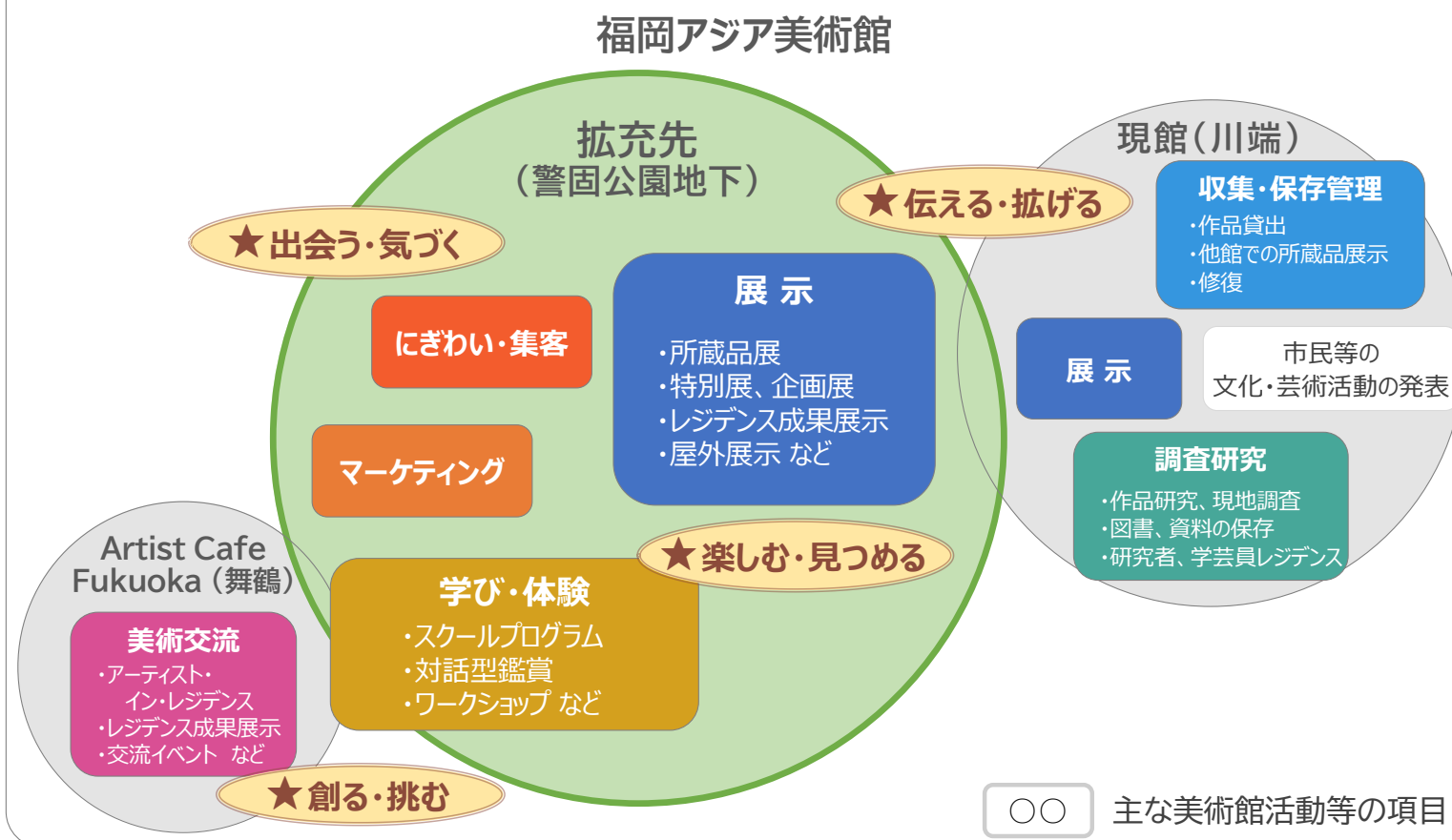
1 アジア美術館の機能分担について

○アジア美術館の機能分担について

3館を連動させ、相乗効果を発揮するとともに、効果的な運営を図る。



3館での主な美術館活動等 と これからのアジア美術館の方向性(★)の分担イメージ



拡充先（警固公園地下）

アジア美術の出会いの中心地

- ・都心の核である天神の警固公園地下に展開し、アジア美術館の活動の中心として、**アジア美術を見せる新たな発信拠点**となることを目指す。
- ・美術館と地上の公園が一体となって、福岡の新たな顔として、心地良く過ごせる文化的な空間を創出し、天神の文化的魅力を一層高め、また、多彩な体験価値を昼夜提供することで、多様な来館動機を創出し、より多くの市民や国内外の観光客が気軽に訪れ、**アジア美術と出会い、気づく場**となることを目指す。
- ・**アジア美術を楽しむ**、アジアの美術作品が発する多様な問いかけを通じて、**自分や世界を見つめる場**を目指す。

【導入する主な機能】

- ・**展示機能**
アジア現代美術の傑作を中心に、アジア美術館の多様なコレクションをより魅力的に発信できるよう、作品の特性を生かした、質の高い展示空間を確保する。
- ・**学び・体験機能**
楽しみながらアジア美術を体験し、多文化や多様性について知る機会となる場を提供する。
- ・**にぎわい・集客機能**
展示機能と一体的に展開し、多様な来館動機を創出し、アジア美術との出会いの機会をつくる。

現館（川端）

アジア美術を深める研究拠点

- ・これまでの蓄積や現在の施設環境を活かし、収蔵、調査研究機能を拡充するとともに、拡充先での展示内容を支え、補完することで、**アジア美術の魅力を広く伝え、拡げていく**。
- ・既存の展示室等を活用し、**市民をはじめ、美術活動者の文化発信ができる場**を目指す。

【拡充、継続する主な機能】

- ・**展示機能**
既存の展示室を活かし、作品の文化的な背景や調査研究の成果を踏まえた資料展示等を行い、来館者のアジア美術への理解を深めることで、拡充先での展示内容を補完し、相乗効果を得られるような展示を行う。
- ・**収蔵機能**
既存の空調システムや高いセキュリティを備えた設備を活用しながら、収蔵スペースを拡張し、コレクションを適切に保存・管理する。
- ・**調査研究機能**
アジア美術の学術的評価の向上のため、収蔵作品の調査研究を進める機材やスペースを整備するなど、研究環境の充実を図る。
アジア美術の研究に活用するため、これまで蓄積してきた調査資料等をより適切に保管・整理する。
- ・**市民等の文化芸術活動の発表**
市民をはじめ、美術活動者の**文化・芸術活動の発表の場**としてこれまで定着している利用のニーズが高いスペースについて、引き続き、確保する。

Artist Cafe Fukuoka（ACF）（舞鶴）

交流と創造の拠点

- ・**アーティストの創造性を高め、チャレンジを支える場**として、これまでのアーティスト・イン・レジデンス事業等の交流の活動を継続し、支援を続ける。
※ACFについては、R8年度までに施設拡充の見込み

2 拡充先における施設整備について

新たに施設を拡充する警固公園地下への施設整備について、以下のとおり整理していく。

(1) 拡充先における施設整備の基本的な方針

1. まちをつなぎ、人をつなぐ 福岡の新たな顔

①公園との連携、一体化

- 福岡の都心の真ん中にある、市民の憩いの場である警固公園と、連携、一体化しながら、誰もが憩える魅力的な文化的空間を創出し、まちへも広げる仕組みづくり

②まちの顔となる高い意匠性

- 人々を惹きつけ、福岡の新たな顔としてふさわしい、高い意匠性を有する施設
- 外光が入る空間や開かれた空間を設けるなど、地上の公園と地下の美術館をつなぐとともに、アートとの出会いを演出する象徴的なエントランス等の整備

③まちづくりへの貢献

- 周辺環境と調和しつつ、美術館と公園、まちをつなぎ、周辺施設とも連携しながら、都心部のアート、文化観光の核として展開できる施設

④地域との多様な連携

- 周辺の施設や企業等と連携ができ、地域の回遊性やブランド価値の向上に貢献し、相乗効果を得られる施設整備

2. 持続可能で安心・快適な美術館

①環境への持続可能な配慮

- 既存構造物の再利用をはじめ、省エネルギー機器の導入等、環境へ配慮した施設整備
- 適切な維持管理等、持続可能な運営を実現する施設整備

②その他の視点

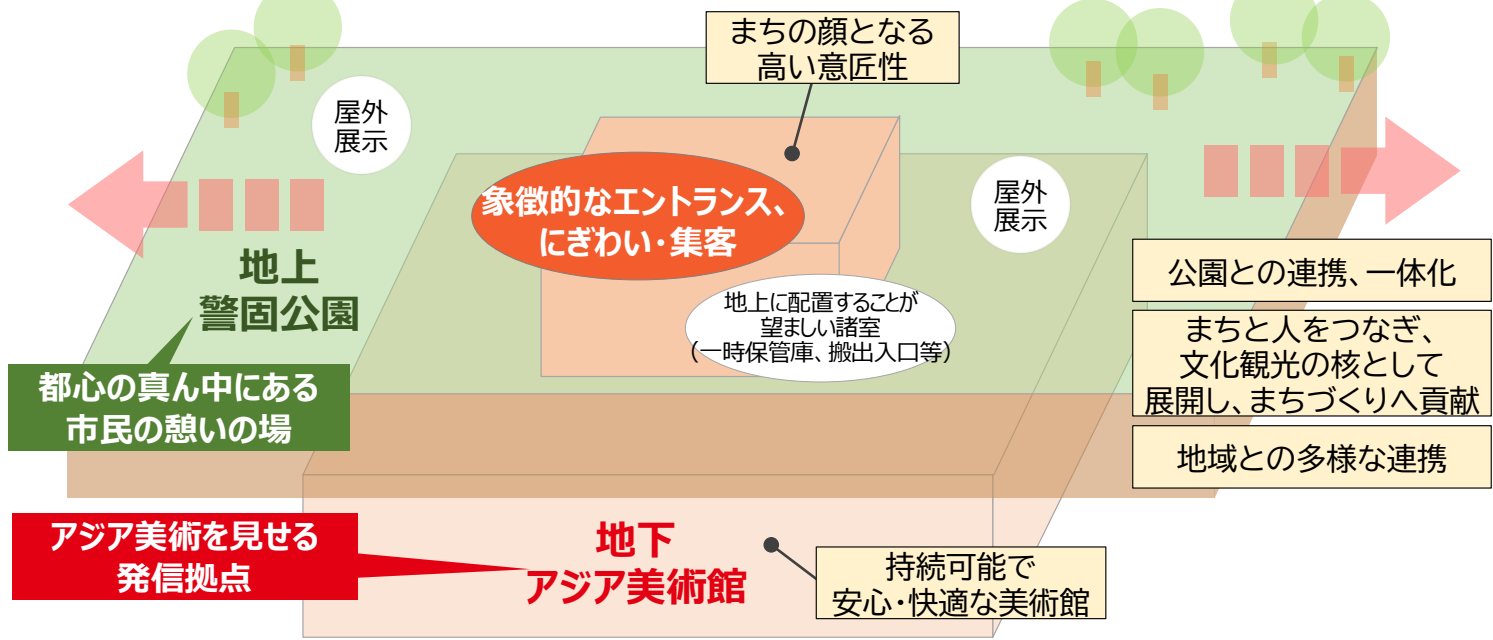
<快適に楽しめるユニバーサルデザイン>

- 誰もが文化芸術を快適に楽しめる、バリアフリーやユニバーサルデザインの実現

<人と作品を守る高い防災性>

- 来館者の安全と市民の財産である美術品を守るため、地下空間の特性を踏まえた浸水対策をはじめとする取組みを進め、高い防災性能を確保する
- 地上に一時保管庫を設けるなど、バックアップ機能を備えた施設
- セキュリティを意識した動線の取り方等、施設の防犯性能を確保するとともに、地域の安全安心にも貢献する施設整備

<空間構成イメージ>



(2) 諸室の考え方

美術館活動等	必要と考えられる機能 ※面積については目安。今後の検討により変更	主な諸室イメージ ※室名は仮称
展示	・立体やインスタレーションなどの大型作品をダイナミックに展示できる空間を備えた展示室 ・小規模から大規模な展示まで柔軟な対応ができる展示室 ・複数のスクリーンによる映像作品や多様なメディアアートに対応できる設備をもつ展示室 ・多彩な現代美術作品を作品の搬入から展示、一時保管、搬出まで円滑かつ安全に行える動線の確保 約3,000㎡ (うち ギャラリー 約2,000㎡)	・ギャラリー (映像ギャラリー含む) ・展示準備室 ・一時保管庫 ・搬出入口、トラックヤード 等
学び・体験	・展示やコレクションに関連したワークショップ活動、講座やセミナーなどのイベントを行う ・学校等の団体見学や対話型アート鑑賞等の受け入れを、説明や休憩等も含め、十分に対応できる空間 約600㎡	・多目的室 ・ワークショップ室 ・ボランティア室 等
その他の美術館活動	(調査研究)展示を行う際に必要な資料、図書を備える 招聘者等が滞在し、実際の展示を基に研究等を行う 約150㎡ (美術交流)レジデンスアーティストの成果展示の開催 (展示の一部)	・資料室、ライブラリー ・滞在者用控室 等 (展示の一部)
エントランス、にぎわい・集客	・アートとの出会いを演出するアプローチやエントランス ・屋外においてもアートを感じられる空間 ・ナイトコンテンツやユニークベニュー等としての活用も見込める 十分な空間 約1,500㎡	・魅力的な導入部分となる象徴的なエントランス ・ミュージアムショップ ・イベント等での飲食提供機能 等



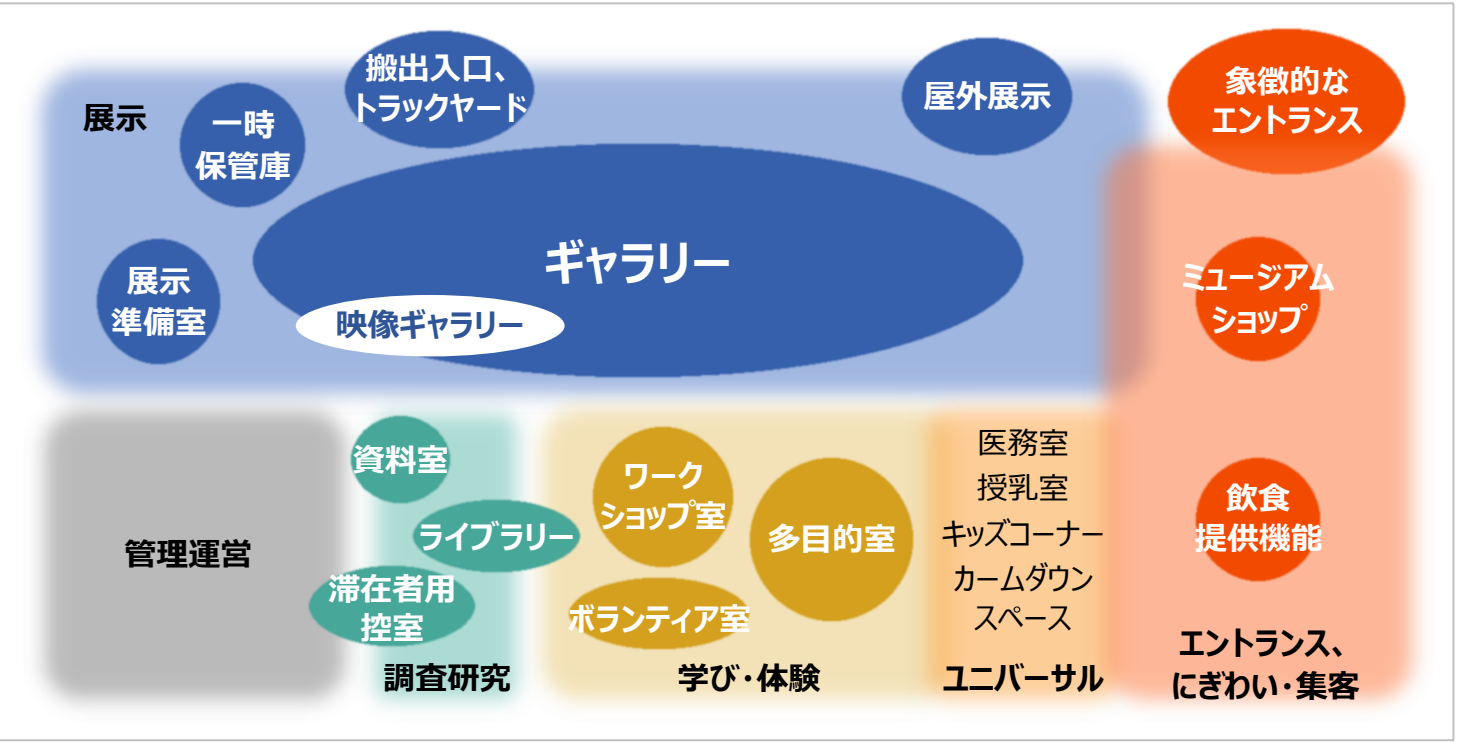
ユニバーサル関連の諸室イメージ

- ・医務室
- ・授乳室
- ・キッズコーナー
- ・カームダウンスペース 等

全体床面積(目安) 7,500～9,000㎡

※参考: 現 地下駐車場の1層あたりの床面積 約4,900㎡

<諸室構成イメージ>



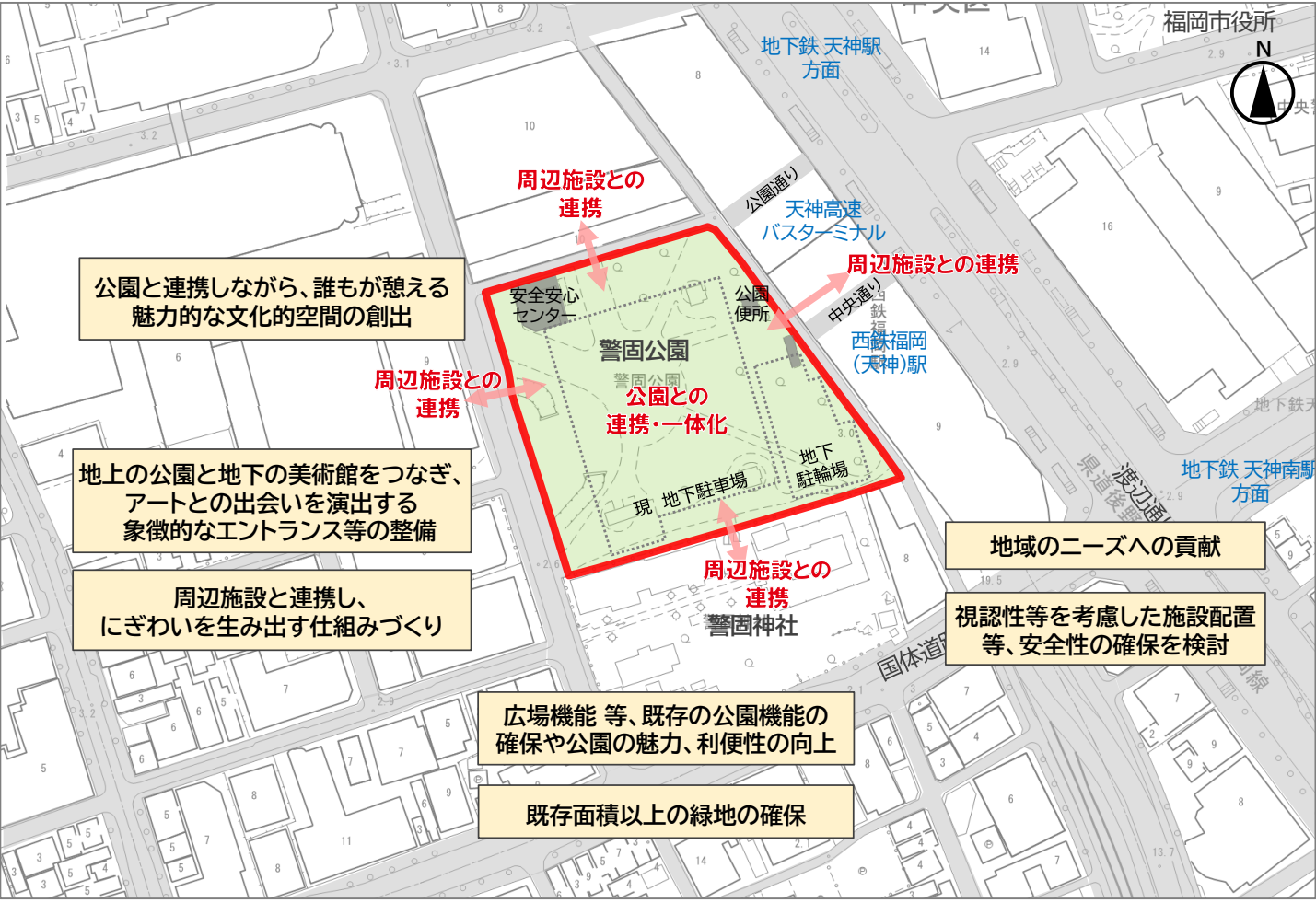
3 拡充先の利用計画

(1) アクセス（公園との動線等）等の考え方

項目	検討のポイント
来館者・公園来訪者のアクセス	- 来館者にとってわかりやすく、交通結節点を踏まえた、地上・地下からの、円滑なアクセスの検討 - 現状の公園来訪者の動線や歩行者交通量を踏まえた、アプローチやエントランス等の施設配置の検討 - ユニバーサルデザインに配慮したアクセスの検討
車両のアクセス	- 周辺の道路事情を踏まえた、歩行者の安全に配慮した車両動線の検討（搬出入の車両、車いす使用者用駐車場 等） - 美術品等の搬出入時の利便性、セキュリティ等に配慮した車両動線計画

(2) 公園等との連携の考え方

項目	検討のポイント
公園との連携・一体化	- 公園と連携しながら、誰もが憩える魅力的な文化的空間の創出（屋外展示 等） - 外光が入る空間や開かれた空間を設けるなど、地上の公園と地下の美術館をつなぐとともに、アートとの出会いを演出する象徴的なエントランス等の整備 - 既存の公園機能の確保（広場機能 等）や公園の魅力、利便性向上 - 周辺施設と連携し、にぎわいを生み出す仕組みづくり
緑地の確保	既存面積以上の緑地の確保
地域のニーズへの貢献	地域ニーズへの貢献ができる取組み
安全性の確保	防犯面から視認性等を考慮した施設配置



4 アイデア収集結果（速報）

（１）概要

- 提案受付：令和7年8月25日～8月28日
（要項公表：令和7年7月7日）
- 参加者：10者（不動産業、建設業、イベント企画等）

※内容は現在個別対話を踏まえ、取りまとめ中であり、今後変更となる可能性がある。

（２）民間事業者の主な提案・意見

①提案区分

- 警固公園地下への施設拡充に関するアイデア・・・8者
- アジア美術館現館（川端）に関するアイデア・・・5者

②警固公園地下への施設拡充に関するアイデア（主な提案）

ア 魅力向上に資するアイデア、事業提案（コンセプト等）

提案の視点	
・アジア美術を体感する展示の工夫	・多様な交流の舞台となる場
・地下駐車場という特殊空間の活用	・人を惹きつけるデザイン、建築的魅力

イ 警固公園地下及び地上部の活用方法

提案の視点	
・公園からつながる広いロビー	・来館者以外も利用可能な飲食等機能
・アートを感じられる公園空間	・エントランスアイコンの設置

ウ 事業範囲、事業手法、事業スキームの考え方

提案の視点	
・美術館は公共で整備、運営	
・民間活力を導入した事業手法（指定管理者制度、PFI-BTO、Park-PFI、立体都市公園制度など）	

エ 提案にあたっての課題や市への要望等

提案の視点	
・官民連携によるイベント等賑わい創出	・地下ネットワークの接続検討
・事業推進（設計、運営等）体制の早期構築	・施設の視認性、開放性、ユニバーサル対応

③アジア美術館現館（川端）に関するアイデア（主な提案）

提案の視点	
・アジア・博多の文化に親しむ場所	・キュレーター等の活動支援
・調査研究の強化、公開	

5 施設拡充に向けた事業手法の考え方

○施設拡充の検討にあたっては、公共の財政負担の低減や施設の効率的な運営を図ることを基本に、以下の考え方も踏まえつつ、民間事業者の意見を参考に、アジア美術館の魅力向上を実現する最も適切な手法について検討していく。

①整備面における考え方

都心部の中心に位置する警固公園に施設拡充を行うにあたっては、公園との一体化や象徴的なエントランスをはじめとする建築の意匠性、アートを感じられる屋外空間の創出など、魅力的な建築・空間デザインが必要不可欠となるため、多彩なデザイン提案を募ることができる手法の検討が必要。
美術館の基幹機能を維持し、運営や活動の独自性、柔軟性、継続性を確保できる施設整備が必要。また、来館促進やにぎわい創出に資するサービス機能において、民間の創意やノウハウを活かすことができる施設整備について検討。

②運営面における考え方

これまでの先駆的な取組みの継続により培ったアジア美術館の文化的意義や評価などの強みを最大限活用できるよう市が引き続き担っていくほか、美術館運営、施設管理の効率化や美術館の活性化のため、民間ノウハウを活用した体制の検討が必要。

<官民の役割分担イメージ>

市が担っていくもの	民間のノウハウ活用が期待できるもの
・アジア美術館収蔵品の収集、保管、調査研究 ・収蔵品の適切な展示、公開 ・教育普及活動	・維持管理業務の効率化 ・行き届いた接遇等の利用者サービス ・美術館の集客向上や多様な利活用を図るサービスの提供

（参考１）想定される主な事業手法の例

- 直接整備方式（従来型方式）・・・資金調達は公共が行い、施設の設計・工事・維持管理・運営を民間に分離分割発注する方式。
- DB方式（Design Build）・・・資金調達は公共が行い、発注を受けた民間事業者が、施設の設計・工事を一括して行う方式。維持管理・運営は公共で実施もしくは民間委託を行う。
- PFI-BTO方式（Build Transfer Operate）・・・民間事業者が施設を建設し、完成直後に公共に所有権を移転して、民間事業者が維持管理・運営する方式。
- 指定管理方式・・・施設の維持管理・運営について、指定した民間事業者に実施させる方式。

（他都市美術館の例）

・DB方式



京都市京セラ美術館

・PFI-BTO方式



鳥取県立美術館

・指定管理方式



島根県立美術館

（参考２）公園の活用事例

・屋外展示



福岡市美術館

・憩いの空間の創出



ひろしまゲートパーク

・立体都市公園制度（都市計画の変更）



宮下公園